

平凡なる事實

大阪市視學 村 田 次 郎

○眞剣味の事

「先生私は幼稚園の事がわからなくて困つて居ります」

「私も御同様に御座いますが一體何がわからないので御座いますか」

「どんな事をしたらいいか分らないので御座います。幼稚園には参りますものゝ幼兒の取扱方も下手ですし……」

「しかし下手でも何でもお出来になる丈けの事を眞剣にやつて御覽になつては如何ですか」

「本眞剣にやつて居るつもりで御座いますが何分頭がないものですから」

「此の頃は朝は何時ごろに幼稚園に入らつしやいますか」

「九時半に初まるものですからまあ九時十五分か二十分頃で御座いますか」

「子供は何時頃に参りますか」

「八時十五分に門を開けますから間もなく参つて居る様で御座います」

「その子供達はどうかさるので御座います」

「私の園には五人の保姆が居りますので當番の方だけが早く参る事になつて居ます」

「幼稚園は子供が来たその瞬間から保育初まると申します、朝今少し早くお出掛けになつて眞剣に

子供を見つめたらどうでせう。出来る丈の事を眞剣にやると云ふのは先づ手近な事を徹底的に仕おほせる事だと思ひます。」

かうした會話を交へた事があつた。六ヶ敷い學理に到つては人があらう。設備や、建築に就ては經濟上の理由もあらう。しかしそれらを除いても幼兒教育者として直に實行し得る事柄が可なり澤山あります、其れ等が實行せられずに居るのを目撃する時に、私は保育者の眞剣味を疑はずには居れないのであります。

本當に眞剣になつて教育を續けて居る人々には自然に、方法も理論も與へられるものだと思ひます、設備も教具も備へられるものと思ひます。今日幼稚園教育の不徹底を告白し其の不振を嘆く人々が、先づ自らを耕して眞剣に此天職を啓く事を考へたならば案外な得物があると私は信じます。書物がないと訴へる人がある、如何にも、手取り早く

手引する書物は無いかも知れない、しかしフレイベルの「人の教育」も「母の遊」もとに角邦譯せられて居ります。グライヤーやサレーやトレシーなども求める人には邦譯せられた書物が手に入るであります。カークバトリックの譯書も出て居るのは御存じの通りであります。しかし、必ずしも幼兒教育専門の書物計りでなくて教育の書物、殊に最近の教育思潮を紹介した書物などは新カント派にしてもデイルタイの教育にしてもデュキーの紹介にしても何れも幼兒教育の參考書として盡させぬ味がある事を信じて疑はないものであります。唯分らないと言ふ。暇にこれらの書物をしつかり讀んで見て自ら自身で何物かを獲得する事が急務であると信じます。

設備にしても「私の方はかう云ふ設備で御座いますから」と言譯を喋々する暇に掃除の手傳でもした方がよからう。可なり不完全な設備でも自分

の家ならば壁に紙も張らう、ガラスの破れたのは修理もしよう。床には花の一つも生けるものを。幼稚園であるが故に他人任せにして居る事は何としても受取れない様に思はれます。私は同時に不完全な設備を保姆さん方の苦心でびつくりする程氣持よくせられて居る尊重すべき數多の實例を知つて居ます。しかも其の奥底に本眞劍の努力が常に動いて居る事を見て、私は心からの感謝を惜みませぬ。

「幼稚園はいそがしくて……」と云ふ人も随分多い様で有ります。私は「御苦勞です」と云ひます。しかし忙しいから出来ない人は又暇でも出来ない人であると思ひます。「一體忙しさに疲勞の感を懷く様では駄目だ」と私の友人のある實業家は申しました。眞劍に事に當つて居る人は決して疲勞の感を起さないさうです。恰も幼兒が自己の全部を砂遊に傾投して居る時の様なものでなくては

ならない。或は「忙しい……」と感ずる人にもこれと同じ様な隙がどこかにあるのではないかと思ひます。

幼稚園で「編み物」の講習もよろしい「洗濯」の講習も結構です。料理や漬物などの講習も保姆の常識養成とかで結構でせう。しかし何としても第一義に没頭する事が先決問題であると信じます。幼稚園の第一義即ち幼兒教育の本質以外の仕事に幾ら忙しいからと言つて、必要なる參考書を読み得ない申譯にはならない。五分や十分出勤が遅刻しても差支之無と云ふ事は言へないと思ひます。

○よく子供を見る事

私達が職として幼稚園を廻る時どうも保姆の子供の見方が足りないと感じせしめられるのであります。理屈はぬきにした處が三十人なり四十人なりの幼兒に目が届かない方が多いと思ひます。個性の觀察と言ふ問題や一々の心理的解釋に到つては

理屈もありませうが何はとに角、どの幼児にも耳を放さない様に注意してほしいと云ふ平凡な事を感ずるのであります。時によると若い保姆方が二人三人つくねんよして築山のほとりに立つて居たり、可愛らしい二三人の子供のみ手を引いたりして居て、所謂「自由遊戯」と云ふものをやつて居ると仰しやるのを見受ける。しかも砂遊の子供が次から次に發展しゆく共同の遊の内に、自由に自己を構成して居る事實に目が届かない、「組の幼児の数が多から出来ない」と言ふ人もあります、如何にも御尤です、しかしこゝにも亦保姆諸君の拂ふべき眞剣さが缺けては居ないでせうか。

遊戯の時間と云ふものも見受けるのであります。しかも二組の幼児が居て次から次へ新作の遊戯をなさいます。一人の保姆はピアノを弾くのに専門で他の一人は子供方と一所になる仕組であります。その時には一組は遊戯をしますが一組は遊戯

室の廻りにある腰掛にじつとして居なければならぬないメソッドであります。この遊戯を斯の如く一定時續けてやる事の可否は暫く措く、唯一人の保姆が一組の幼児を樂器も弾き遊戯も出来る位にはなつて頂き度いと思ふのであります。あまり六ヶ敷い所作事をしつけ様と思へばこそ骨も折れませう。眞に幼児に適する遊戯ならば一人で出来ない事は無いと信じます。長い遊を見て居る子供はもういやになつて騒ぎ出す始末ではありませんか。蓄音器も飾り物ではありません。樂器と兩方が出来なければ蓄音器を用ひたら甘く行く者を、蓄音器もありながらかく二人或は三人懸りのお遊戯はどんなものでせう。やはり保姆の目の届かない一面ではないでせうか。

○基本生活の問題

生活即教育は幼稚園では新しい言葉でも何でもありません。フレーベルの時から主張と云つて

もよいと思ひます。小學校では今日この思想を取り入れて到る處に新しい試を企て、居るのに、本家本元の幼稚園が生活から分離したる手技だの手工だのと云ふ様な事に逆もどりしては大變だと思ひます、殊に、日常の生活をそのまゝに取り入れて幼児の保育とする事にはもつとく、注意を喚起する必要があると思ひます。

着物の着方靴のはき方、手を洗ふ事鼻汁をかむ事そのまゝに基本生活を取り入れて教育になるものを、教育とは遠い彼方にあるアカデミックなヴァーバリズムを偶像視して居る幼児教育者も可なりある様に思はれます。

デンバー市の保育課程にしてもコロンビアの保育課程にしても基本生活を如何に取り入れて居るかは己に業に御承知の事と思ひます。

卑近なる日常の生活、基本の衛生生活、基礎の社會的生活を人一人に體驗せしめ或は藝術化し或

は遊戯化して幼児がおやみ無く生を構造しつゝ日々々に新しい世界を見出して行く様な保育案がもつと必要では無いでせうか。

幼児の爪が伸びて居ても、手や足が黒くなつて居ても平氣で居る人も無いでは無い。机や腰掛の寸法に注意して幼児の生活を見つめる保姆は可なり多い。要は生活其物にもつと即したる保育が必要であると思ひます。

そこはかとなき感想を陳ぶれば果しが有りませぬ。しかし極めて平凡で極めて卑近で直に實行し得る事を二つ三つ申上げたのみであります。理論の深遠と到徹とは他人に求めませう。私はムツンリニに倣つて「理論に非ず實行なり」との立場から幼児園教育の基礎の問題を考へたのであります。